

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 青山 清英

研究課題		人間学的地域連携研究の基礎の構築
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、人間学的な大学ー地域連携に関する研究の研究方法的基盤を構築することにある。そのためにまず、現象学的生物学者のポイテンディクの科学論に着目し、その分析を行う。ポイテンディクの提唱する過程概念と機能概念の厳密な分析により機能概念に基づく地域連携研究における現象学的な意味分析の方法を定立する。
	研究の 結果	人間の行為を対象とした大学地域連携研究における人間学的方法は以下のような手順にまとめることができるであろう。 1. 人間の行為を機能としてとらえる立場を選択する。 2. 研究対象となる行為を直観によってその意味と価値を把握する。ただし、この直観される対象が発見しようとしている特徴的なものを現象のなかに多く含んでいるか否かについては十分な吟味が必要である（研究対象の適格性）。 3. 把握した内容について生命的想像力を用いて運動モルフォロジーの方法により追感を用いて分析することによってその行為（現象）の意味（本質、類型）と価値を同定する。 4. さらに、発生的分析を用いてこれらの意味や価値が発生してきた起源を解明する。その行為がどのような出来事（実的成素）によって発生してきたのかを現象学的な「解体」の方法を用いて明らかにする。 5. 2から4を他の事例などにあたるなどして分析結果の妥当性を高める。 以上のような作業によってはじめて人間の行為が解明されることになる。
	研究の 考察・ 反省	ポイテンディクに基づいて、人間学的な大学地域連携研究の学的基盤について確認してきた。現在、産学連携や大学地域連携のような事業については、形式知と実践知の統合や文理融合といったことが提唱され、そこでは「総合知」の重要性が指摘されている。内閣府が『「総合知」の基本的な考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ』（2023）に示しているように、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことという意味での「総合知」の視点が重要となる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  青山清英・鈴木理・土屋弥生・伊佐野龍司・関慶太郎『大学地域連携における人間学的な行為理解の基礎』、教師教育と実践知、第9巻、pp.17-30、2024年6月。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物	